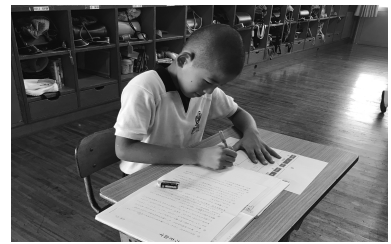


イ 考えの共有

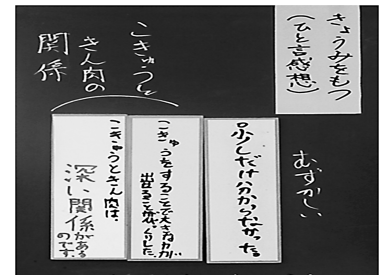
(ア) 思考の可視化

考えの共有を促すために、自分の考えや話合いでの思考の跡を可視化し、互いの考えを共有できるようにしている。

自分の思考の跡を可視化できるように、短冊黒板やホワイトボードを活用して、一人一人の考えを書かせている(資料11)。また、話合いでの思考の跡を可視化できるように、一人一人の短冊黒板やホワイトボードを視点ごとに分類させたり、順番に並べ替えさせたりして整理している(資料12)。



【資料 11 思考の可視化】

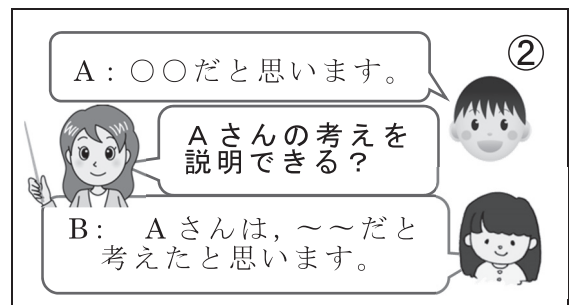


【資料 12 短冊黒板の活用】

(イ) 考えの再考を促す発問

話合いにおいて、考えの共有を図るために、発問で考えをゆさぶったり、友達の考えを意識させたりして、自分の考えの再考を促している。

考えをゆさぶるには、子供の発表に対して、「どうして?」と考えの理由を聞き返す(資料13-①)ことが大切である。また、友達の考えを意識させるには、「〇〇さんの考えを説明できるかな?」と学級全体に課題意識を広げる発問をし、子供に考えさせることが重要である。(資料13-②)。

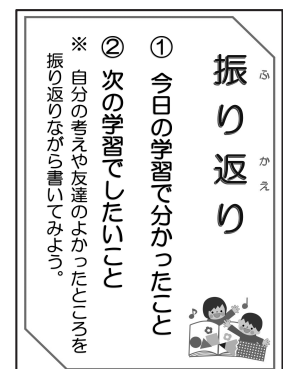
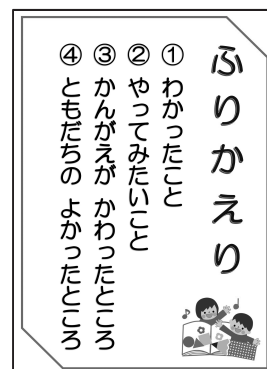


【資料 13 考えの再考を促す発問】

ウ 考えの自覚化

(ア) 変容を実感させる振り返り

話合いを通して変容した自分の考えを自覚化させるために、毎時間、視点をもって振り返らせる時間を設定している。自分の考えの変容を実感させるために、分かったこと(学習内容や学び方)、次の学習でしたいこと(次時の見通し)等の視点(資料14, 15)を発達の段階に応じて設けている。また、授業のねらいに合わせて視点を限定することもしている。



【資料 14 低学年】

【資料 15 中・高学年】